

国語

注意

- 1 問題は□から□まであります。
- 2 考査時間は三十分です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しましょう。
- 5 特別な指示のないものは、句読点、記号も字数にふくめます。
- 6 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書きましょう。
- 7 楷書を用い、丁寧な字で書き記しましょう。
- 8 氏名とクラス、出席番号を解答用紙の決められたところに記入しましょう。

一次のそれぞれの問いにこたえなさい。〔二十点〕

問一 次の——線部のカタカナを漢字で書きなさい。〔各1〕

- ① 話を途中でサエギる。
- ② モクモクと課題に取り組む。
- ③ 気がいすぎる。
- ④ 注意をウナガす。
- ⑤ ソクジツ發送する。
- ⑥ 飛行機をソウジュウする。
- ⑦ 別の可能性をシサする。
- ⑧ 祖父のカタミ。
- ⑨ 新記録にイドむ。
- ⑩ 海外の任地にオモムく。

問二 次—線部の漢字のよみを答えなさい。(送り仮名はつけないこと。)[各1]

- ① 愆意
- ② 代物
- ③ 憩い
- ④ 忌中
- ⑤ 悦楽
- ⑥ 貫徹
- ⑦ 傲慢
- ⑧ 家督
- ⑨ 境内
- ⑩ 隔てる

二 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。〔十点〕

- ① この気もちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れが
大地からあしのうらを伝わって
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
声にならないさけびとなってこみあげる
この気もちはなんだろう
枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく
- ② よろこびだ
しかしかなしみでもある
いらだちだ
しかもやすらぎがある
あこがれだ
そしていかりがかくれている
- ③ 心のダムにせきとめられ
よどみ渦まきせめぎあい
いまあふれようとする

この気もちはなんだろう

- ④ あの空のあの音に手をひたしたい
まだ会ったことのないすべての人と
会ってみたい話してみたい
あしたとあさってが一度にくるといい
ぼくはもどかしい
地平線のかなたへと歩きつづけたい
そのくせこの草の上でじっとしていたい
大声でだれかを呼びたい
そのくせひとりだまっていたい
この気もちはなんだろう

問一 ①「この気もちは何だろう」という表現は四か所にある。この部分に使われる表現技法とその効果を簡潔に書きなさい。表現技法は漢字で書くこと。(2)

問二 ②「よるこびだ……いかりがかくれている」とある。この部分と同じような形で気もちが並べられている部分を連続した四行で探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。(2)

問三 ③「心のダムにせきとめられ」とは、どのような様子を表している言葉か。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(2)

ア <ぼく>が、心の中の感情をありのままにはき出そうとしている様子。
イ <ぼく>の頭が、あふれ出しそうな気もちを冷静に観察している様子。
ウ <ぼく>の内面で、さまざまな気もちが複雑にからみ合っている様子。
エ <ぼく>が焦っていて、落ち着いて冷静になろうと努力している様子。

問四 ④「あの空の……一度にくるといい」では三つの願望が挙げられているが、これらの願望を一言でまとめると、どのような願望だといえるか。「かなえる」という言葉を使って、二十字以内で書きなさい。「かなえる」は活用させて使ってもよい。(2)

問五 この詩についての説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(2)

ア 生命力あふれる春の自然と不安定な「ぼく」の心を対比し、「ぼく」の弱さを見いだしている。
イ 春の情景を丁寧に描くことで、「ぼく」の心にエネルギーがあふれてくる様子を連想させている。
ウ 気もちの変化を細やかに描写し、「ぼく」の感情がしだいに整理されていく様子を描いている。
エ 内面からあふれ出る気もちを次々と並べて、「ぼく」の内面の葛藤をみずみずしく表している。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(二十点)

「日本人は先生に対して、ずいぶんひどいことをしましたね。交換船の中止にしても国際法無視ですし、木づちで指をたたき潰すに至っては、もうなんて言っていないか。申し訳ありません。」

ルロイ修道士はナイフを皿の上に置いてから、右の人さし指をびんと立てた。指の先は天井を指してぶるぶる細かく震えている。また思い出した。ルロイ修道士は、「こちら」とか、「よく聞きなさい。」とか言う代わりに、右の人さし指をびんと立てるのが癖だった。

「総理大臣のようなことを言っただけじゃないよ。だいたい、日本人を代表してもの言ったりするのは傲慢です。それに、日本人とかカナダ

人とかアメリカ人といったようなものがあると信じてはなりません。一人一人の人間がいる、それだけのことですから。」
「わかりました。」

わたしは右の親指をびんと立てた。これもルロイ修道士の癖で、彼は、「わかった。」「よし。」「最高だ。」と言う代わりに、右の親指をびんと立てる。そのことも思い出したのだ。

「おいしいですね、このオムレツは。」

ルロイ修道士も右の親指を立てた。わたしは、はてなと心の中で首をかしげた。おいしいと言うわりには、ルロイ修道士に食欲がない。ラグビーのボールを押し潰したようななかっこのブレーンオムレツは、空気を入れればそのままグラウンドに持ち出せそうである。ルロイ修道士はナイフとフォークを動かしているだけで、オムレツをちっとも口へ運んではいけないのだ。

「それよりも、わたしはあなたをぶったりはしませんでしたか。あなたにひどい仕打ちをしませんでしたか、もし、していたなら、謝りたい。」「一度だけ、ぶたれました。」

ルロイ修道士の、両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけている姿が脳裏に浮かぶ。これは危険信号だった。この指の動きでルロイ修道士は、「おまえは悪い子だ。」とどなっているのだ。そして次には、きっと平手打ちが飛ぶ。ルロイ修道士の平手打ちは痛かった。

「やはりぶちましたか。」

ルロイ修道士は悲しそうな表情になって、ナプキンを折り畳む。食事はもうおしまいなのだろうか。

「でも、わたしたちは、ぶたれてあたりまえの、ひどいことをしてかしたんです。高校二年のクリスマスだったと思いますが、無断で天使園を抜け出して東京へ行ってしまったのです。」

翌朝、上野へ着いた。有楽町や浅草で映画と実演を見て回り、夜行列車で仙台に帰った。そして待っていたのがルロイ修道士の平手打ちだった。「あさつての朝、必ず戻ります。心配しないでください。捜さないでください。」という書き置きを、園長室の壁に貼りつけておいたのだが。

「ルロイ先生は一月間、わたしたちに口をきいてくれませんでした。平手打ちよりこっちのほうがこたえましたよ。」

「そんなこともありましたねえ。あのときの東京見物の費用は、どうやってひねり出したんです。」

「それはあのととき白状しましたが……。」

「わたしは忘れてしまいました。もう一度教えてくれませんか。」

「準備に三か月ばかりしました。先生からいただいた純毛の靴下だの、つなぎの下着だのを着ないでとっておき、駅前の闇市で売り払いました。鶏舎から鶏を五、六羽持ち出して、焼き鳥屋に売ったりもしました。」

ルロイ修道士は改めて両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける。ただしあの頃と違って、顔は笑っていた。
「先生はどこか悪いんですか。ちっとも召し上がりませんかね。」

「少し疲れたのでしよう。これから仙台の修道院でゆっくり休みます。カナダへたつころは、前のような大食らいに戻っていますよ。」

「だったらいいのですが……。」

「仕事はうまくいっていますか。」

「まあまあといったところです。」

「よろしい。」

ルロイ修道士は右の親指を立てた。「仕事がうまくいかないときは、この言葉を思い出してください。『困難は分割せよ。』あせってはなりません。問題を細かく割って、一つ一つ地道に片づけていくのです。ルロイのこの言葉を忘れないでください。」

冗談じゃないぞ、と思った。これでは、遺言を聞くために会ったようなものではないか。そういえば、さっきの握手もなんだか変だった。「それは実に穏やかな握手だった。ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそっと握手をした。」というように感じたが、実はルロイ修道士が病人なのではないか。元園長は何かの病にかかり、この世のいとまごいに、こうやって、かつての園児を訪ねて歩いているのではないか。

「日本でお暮らしになっていて、楽しかったことがあったとすれば、それはどんなことでしたか。」

先生は重い病気にかかっているのです。そして、これは①お別れの儀式なのです。さすがにそれははばかられ、結局は、平凡な質問をしてしまった。

「それはもう、こうやっているときに決まっています。天使園で育った子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいつとう楽しい。何よりもうれしい。そうそう、あなたは上川君を知っていますね。上川一雄君ですよ。」

②もちろん知っている。ある春の朝、天使園の正門の前に捨てられていた子だ。捨て子は春になるとぐんと増える。陽気がいいから、発見されるまで長くかかっても風邪を引くことはあるまいという、母親たちの最後の愛情が春を選ばせるのだ。捨て子はたいてい姓名がわからない。そこで、中学生、高校生が知恵を絞って姓名をつける。だから、忘れるわけではないのである。

「あの子は今、市営バスの運転手をしています。それも、天使園の前を通っている路線の運転手なのです。そこで、月に一度か二度、駅から③上川君の運転するバスに乗り合わせる必要があります。そのときは楽しいですよ。まずわたしが乗りますと、こんな合図をします。」

ルロイ修道士は右の親指をびんと立てた。

「わたしの癖をからかっているんですね。そうして、わたしに運転の腕前を見てもらいたいのでしょうか、バスをぶんぶんとはします。最後に、④バスを天使園の正門前に止めます。停留所じゃないのに止めてしまうんです。上川君はいけない運転手です。けれども、⑤そういうときがわたしにはいつとう楽しいのですね。」

「いつとう悲しいときは……？」

「天使園で育った子が世の中に出て結婚しますね。子供が生まれます。ところがそのうちに、夫婦の間がうまくいかなくなる。別居します。離婚

します。やがて子供が重荷になる。そこで、天使園で育った子が、自分の子を、またもや天使園へ預けるために長い坂をとぼとぼ上ってやって来る。それを見るときがいつとう悲しいですね。なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです。」

ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、
「汽車が待っています。」

と言い、右の人さし指に中指をからめて掲げた。これは「幸運を祈る」「しっかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だった。

上野駅の中央改札口の前で、思い切ってきいた。

「ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くてしかたがありませんが。」

かつて、わたしたちがいたずらを見つけたときにしたように、ルロイ修道士は⑥少し赤くなって頭をかいた。

「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」

「天国か。本当に天国がありますか。」

「あると信じるほうが楽しいでしょうが。死ねば、何もなただおやみに寂しいところへ行くと思うよりも、にぎやかな天国へ行くと思うほうがよほど楽しい。そのために、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、それから⑦ルロイ修道士の手をとって、しっかりと握った。それでも足りずに、腕を上下に激しく振った。

「痛いですよ。」

ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。

上野公園の葉桜が終わるころ、ルロイ修道士は仙台の修道院でなくなった。まもなく一周忌である。わたしたちに会って回っていたころのルロイ修道士は、身体じゅうが悪い腫瘍の巣になっていたそうだ。葬式でそのことを聞いたとき、わたしは知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。

問一 で囲まれた部分を「わたし」は何と受け止めましたか。一語で抜き出さない。 (2)

問二 ①「お別れの儀式」と同じ意味で使われている言葉を、一〇字程度で書き抜きなさい。 (2)

問三 ②「もちろん知っている」とありますが、それは何故ですか。最も適当なものを選び、記号で書きなさい。 (2)

ア 上川君の名付け親を自分たちが任されたから。 イ 上川君が春に捨てられた子どもだから。

ウ 上川君から、母親の最後の愛情を感じたから。 エ 上川君が、自分の姓名すら分からなかったから。

問四 ③ 「上川君の運転するバスに乗り合わせる」とあります。このときの上川君の様子から、どんな思いが読みとれますか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。(2)

ア 恩師に対する親愛の情。

ウ 乗客への感謝の気持ち。

イ 老人をからかい、バカにする気持ち。

エ 修道士に対する強い尊敬の念。

問五 ④ 「バスを天使園の正門前」とは、上川くんにとってどのような場所ですか。文章中の言葉を用いて書きなさい。(2)

問六 ⑤ 「そういうとき」とはどういうときですか。本文から三十五字以内で書かれた箇所を探し、初めと終わりの四字を抜き出さない。(2)

問七 ⑥ 「少し赤くなって頭をかいた」とありますが、それは何故ですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。(2)

ア お別れをしに来たことを隠していたのに、「わたし」に悟られてしまったことが嬉しく、照れくさかったから。

イ 神を信じているにもかかわらず、嘘をついてしまったことが申し訳なく、きまり悪く感じたから。

ウ 再会の目的を悟られないようにしていたが、分かってしまったことにとまどい落胆したから。

エ 嘘をつき通すつもりだったのに見抜かれてしまい、きまり悪く思ったから。

問八 ⑦ 「ルロイ修道士 振った」とあるが、このときの「わたし」の気持ちの説明として適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。(3)

ア 死を受け入れているルロイ修道士に対して、自分は未熟であることを恥じる気持ち。

イ ルロイ修道士にぶたれた過去を思い出して、ひどい仕打ちをされたと恨む気持ち。

ウ 自分たちを育て上げ、今も大切に思ってくれていることに感謝し、尊敬する気持ち。

エ これが永遠の別れになってしまうかもしれないということを信じたくない気持ち。

オ ルロイ修道士に死が迫っていることを受け入れ、明るく送り出したい気持ち。

問九 大人になった「わたし」にとって、ルロイ修道士は、どのような存在なのか。「敬慕」「子ども達」という言葉を必ず入れて二五〇三
五字で書きなさい。(3)

第三学年 国語 一学期中間考査 解答用紙

三年
組
番
氏名

一			
問二		問一	
⑥	①	⑥	①
⑦	②	⑦	②
⑧	③	⑧	③
⑨	④	⑨	④
⑩	⑤	⑩	⑤

二		
問五	問四	問一
		技法
		効果
		問三

三			
問九	問七	問四	問一
	問八	問五	問二
		問六	
			問三

25

35